

# 令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名	西淀川区
学 校 名	大阪市立川北小学校
学校長名	吉岡 千明

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育局では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育局の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

## 1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 調査内容

### (1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

### (2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

## 3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・大阪市立川北小学校では、第6学年77名

## 令和4年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

平均正答率については、国語は、全国平均より5.6ポイント、大阪市平均より4ポイント、算数は、全国平均より5.2ポイント、大阪市平均より4ポイント、理科は、全国平均より7.3ポイント、大阪市平均より4ポイント、下回っている。算数・国語は、令和3年度の平均正答率と比べ、全国平均との差が、国語で0.9ポイント、算数で2ポイント、大阪市平均との差が、国語で1ポイント、算数で2ポイント広がった。理科は、平成30年度と比べ、全国平均との差が1.8ポイント、大阪市平均との差が5ポイント広がった。

平均無解答率については、国語は、全国平均より2.7ポイント、大阪市平均より3.6ポイント、算数は、全国平均より1ポイント、大阪市平均より1.2ポイント、理科は、全国平均より3.2ポイント、大阪市平均より2.9ポイント、高かった。

質問紙調査において、肯定的回答が全国平均・大阪市平均を上回っていたは、将来の希望（夢、目標）、困難への挑戦、進んで困っている人を助ける、学校に行くのが楽しい等であり、全国平均・大阪市平均を下回っていたものは、自尊心感情である。

また、国語・算数・理科の学習が好きである、ICT機器は学習に役立つなどと肯定的回答をした児童の割合は、全国平均、大阪市平均を上回った。計画的な家庭学習については、大阪市平均は上回ったが、全国平均を下回った。

## 分析から見えてきた成果・課題

### 教科に関する調査より

【国語】「書く」力は50ポイントで、全国平均より1.5ポイント、大阪市平均より4ポイント高く、昨年度より10ポイント以上高くなり、改善がみられる。「話すこと・聞くこと」は、63.2ポイントで、全国平均より3ポイント、大阪市平均より0.2ポイント低かったが、令和3年度の差に比べ全国平均と4.1ポイント、大阪市平均と3.4ポイント縮まり、改善がみられる。「伝える力」を中心に授業改善に取り組んできた成果といえる。しかし、「言葉の特徴や使い方に関する事項」が、全国平均より11.6ポイント、大阪市平均より9.3ポイント低く、「我が国の言語事項に関する事項」も全国平均・大阪市平均との差が5ポイント以上あることから、基礎的内容である言語事項の習得を図る必要がある。

【算数】どの領域も全国平均・大阪市平均を下回っており、「図形」を除いて、令和3年度より、更に差が開いている。「数と計算」は、全国平均より5.8ポイント、大阪市平均より4.4ポイント低い。単なる計算はできているが、目的にあった数の処理の仕方を根拠とともに決定できる力を育てていく必要がある。「データの活用」は、全国平均より6ポイント、大阪市平均より4.8ポイント低い。データーを読み取り、目的に応じて筋道を立てて考えたり、数量の関係を式に表したりする力を育てていく必要がある。思考・判断・表現に関するものの正答率は48.7と高くない。数学的な考え方を身につけ、意味（概念）の理解を伴った課題の解決や考えを説明する力、学習したことを活用する力を育てていく必要がある。

【理科】どの領域も全国平均・大阪市平均を下回っている、「『粒子』を柱とする領域」は、全国平均より12.8ポイント、大阪市平均より8.6ポイント低い。「『生命』を柱とする領域」は、全国平均より3.7ポイント、大阪市平均より0.9ポイント低い。

観察・実験の基礎的な技能の習得と共に、結果の考察を通して、科学的な見方・考え方を身につけさせ、自ら問いを見出す力を育てていく必要がある。

### 質問紙調査より

「将来の夢や目標を持っている」（86.9%）、「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦する」（80.3%）、「人が困っているときは、進んで助ける」（89.5%）、「学校に行くのが楽しい」（92.1%）に肯定的回答をする児童の割合が、全国平均・大阪市平均を上回った。一方、「自分には、よいところがある」（73.7%）に肯定的回答する児童の割合は、全国平均・大阪市平均を下回った。

「学校に行くのが楽しい」ということは、教育活動や友だちとの関係など、学校生活が、児童にとって楽しく充実したものであると言える。今後は、児童の自己肯定感や自尊心感情を高める教育活動を推進していく必要がある。

「ICT機器は学習に役立つ」（94.7%）、「国語の学習が好き」（72.3%）、「算数の学習が好き」（67.1%）、「理科の学習が好き」（85.5%）に肯定的回答をした児童の割合は、全国平均・大阪市平均を上回ったが、「家庭で自分で計画を立てて学習する」（65.8%）に、肯定的回答をした児童の割合は、大阪市平均は上回ったが、全国平均を下回った。

本校の児童は、学習意欲、ICT機器活用への意欲が高いと言えるが、今後は、学年に応じた、自ら計画を立てて学習するための手立てを具体的に指導する必要がある。

## 今後の取組(アクションプラン)

国語、算数、理科ともに、習熟度別少人数指導の充実や個に応じた指導を進めていくことで、基礎的・基本的な学習内容の確実な定着を図る。ペア学習や少人数でのディスカッションや意見交流等を取り入れ、学ぶ楽しさ、分かる喜びを感じさせ、様々な課題を自ら解決していく力を伸ばしていく。同時に、学習に対する主体性を育てていき、主体的・対話的で深い学びに繋げていく。自分の思いや考えをかく（表現する）時間を十分に取、その力を伸ばしていく。

また、学習したことを活用する場面を設定することで、学ぶことの有用性を感じさせ、自ら計画を立てて学習する習慣を身につけさせるとともに、児童一人一人が学びの主体である意識を育てたい。

今後も、研究テーマ「自分の思いや考えを伝え合う力を育てる」を基に、授業研究、研修等を進め、教員の授業力・指導力向上を図るとともに、全教育活動において、自分のよさに気づき、他者理解を深める機会を多く設け、自他を大切にする児童を育てていく。

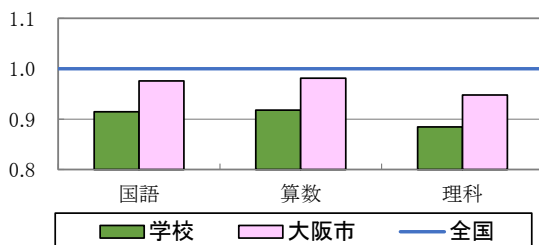
コロナ禍において、「子どもたちの学びを止めない」ためにも、ICT機器（1人1台学習者用端末等）の有効活用を図り、オンライン学習等の更なる充実に努める。

# 【 全体の概要 】

## 平均正答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	60.0	58.0	56.0
大阪市	64.0	62.0	60.0
全国	65.6	63.2	63.3

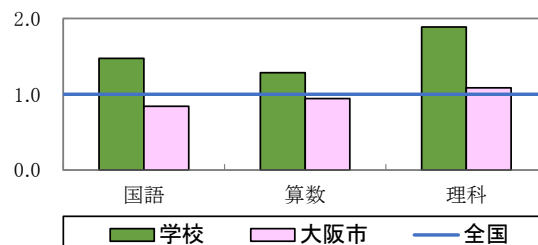
平均正答率(対全国比)



## 平均無解答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	8.4	4.5	6.8
大阪市	4.8	3.3	3.9
全国	5.7	3.5	3.6

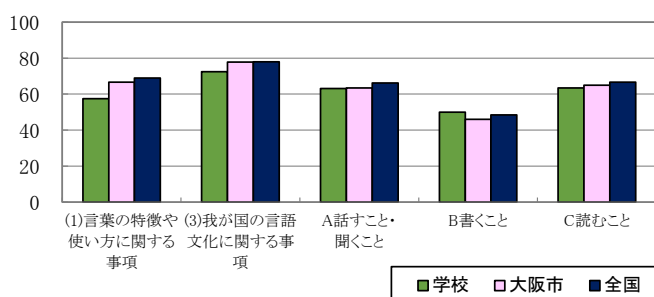
平均無解答率(対全国比)



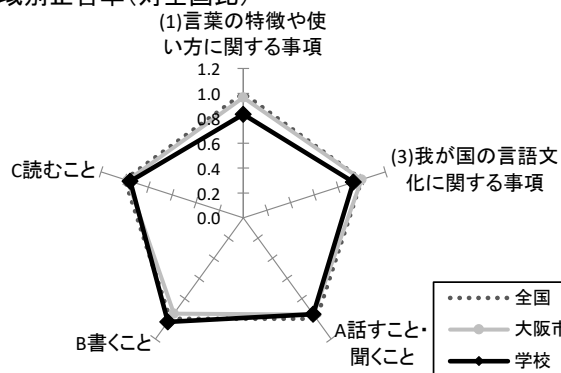
## 【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使 い方に関する事項	5	57.4	66.7	69.0
(2)情報の扱い方に 関する事項	0			
(3)我が国の言語 文化に関する事項	1	72.4	77.8	77.9
A 話すこと・聞くこと	2	63.2	63.4	66.2
B 書くこと	2	50.0	46.0	48.5
C 読むこと	4	63.5	65.0	66.6

国語 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



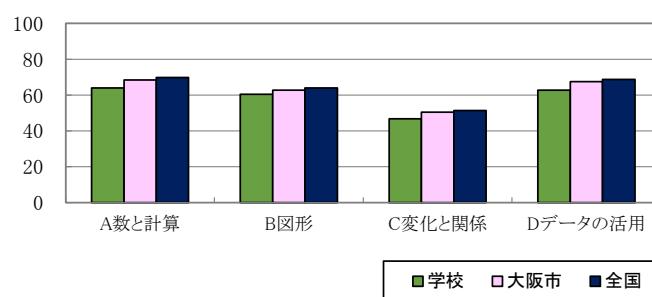
国語 領域別正答率(対全国比)



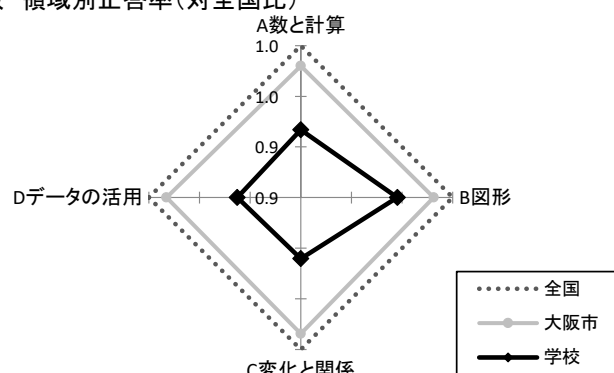
## 【 算 数 】

学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	6	64.0	68.4	69.8
B 図形	4	60.5	62.8	64.0
C 測定	0			
C 変化と関係	4	46.7	50.5	51.3
D データの活用	3	62.7	67.5	68.7

算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)

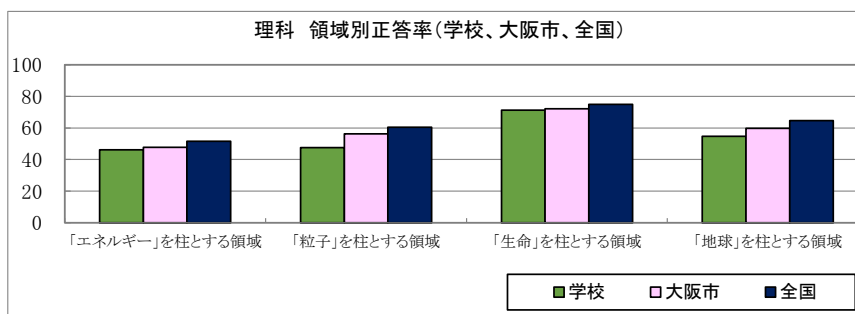


算数 領域別正答率(対全国比)

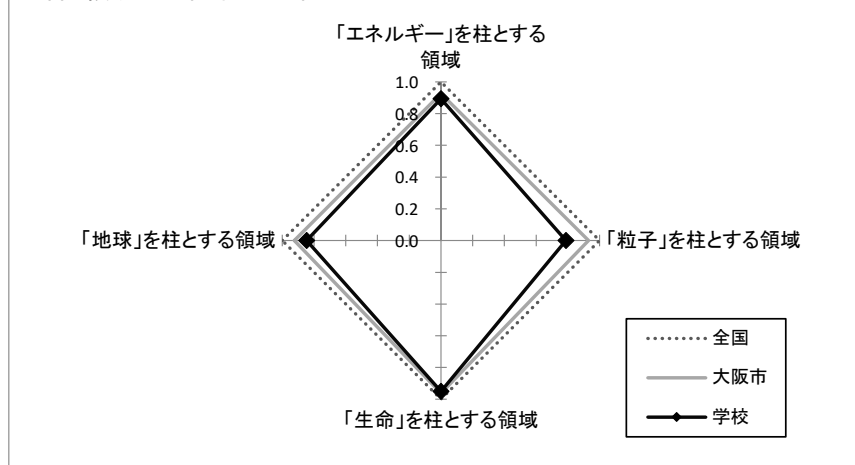


## 【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 区 分	「エネルギー」を 柱とする領域	46.1	47.8	51.6
	「粒子」を 柱とする領域	47.6	56.2	60.4
B 区 分	「生命」を 柱とする領域	71.3	72.2	75.0
	「地球」を 柱とする領域	54.7	59.7	64.6



理科 領域別正答率(対全国比)



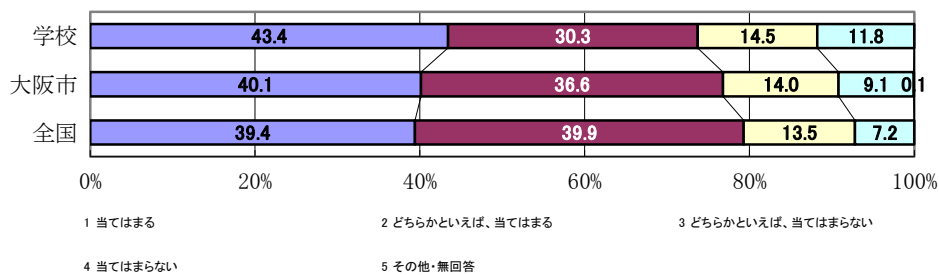
# 児童質問紙より

質問番号

質問事項

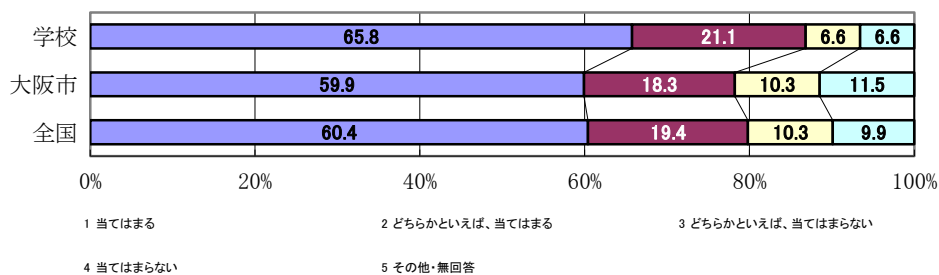
7

自分には、よいところがあると思いますか



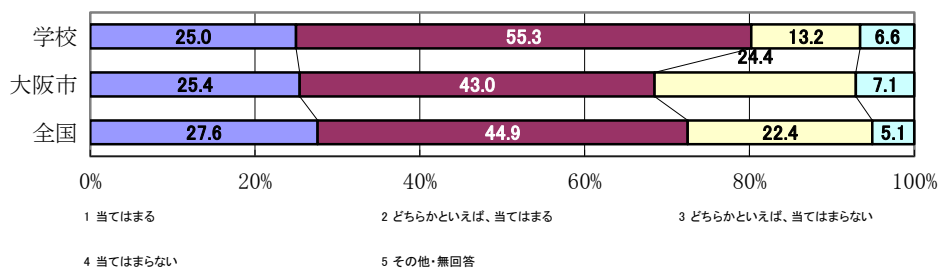
9

将来の夢や目標を持っていますか



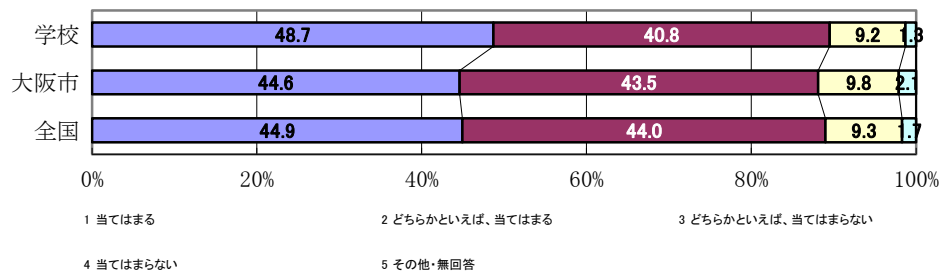
11

難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか



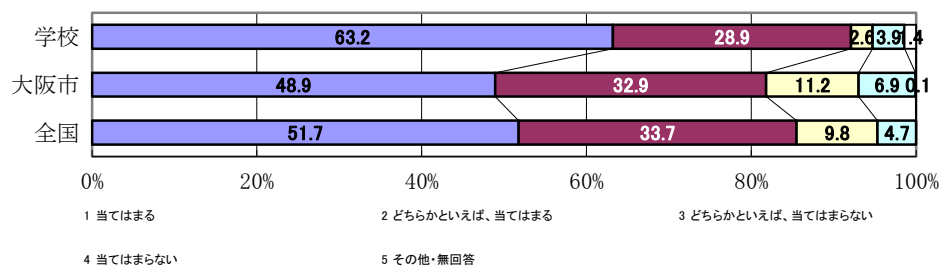
12

人が困っているときは、進んで助けていますか



16

学校に行くのは楽しいと思いますか



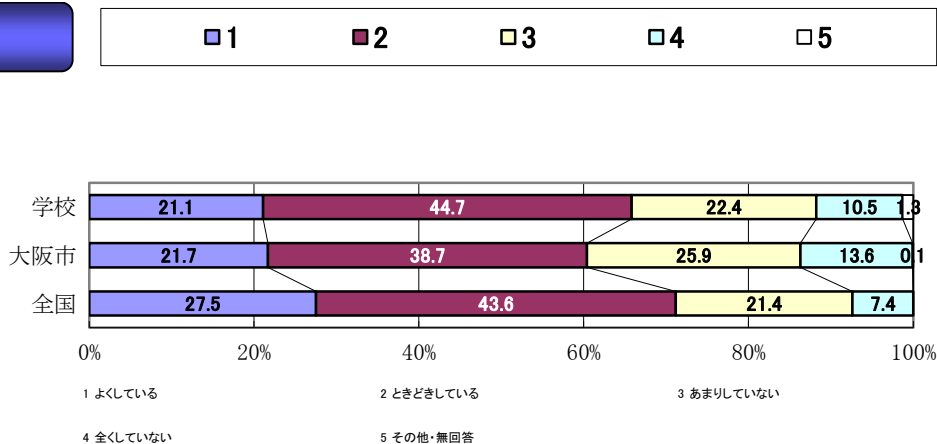
# 児童質問紙より

質問番号

質問事項

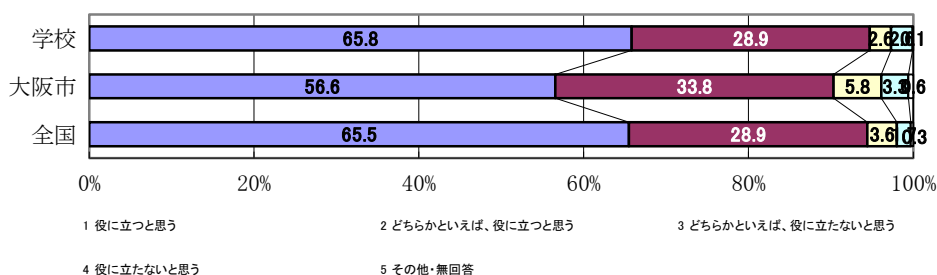
20

家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含む)



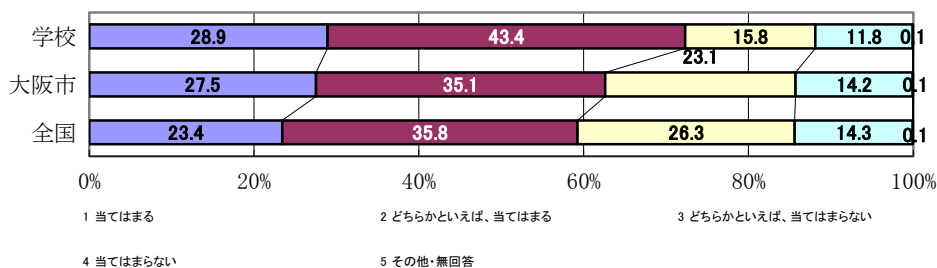
36

学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか



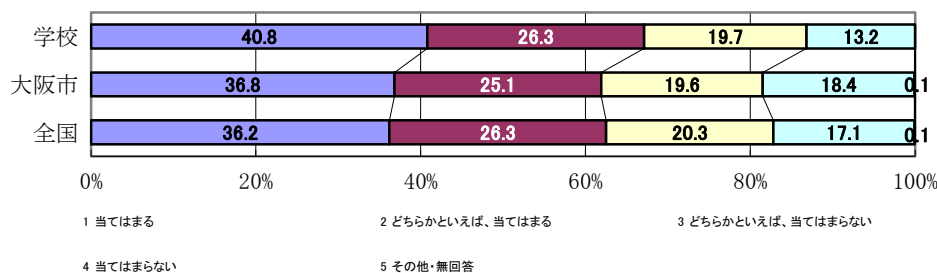
49

国語の勉強は好きですか



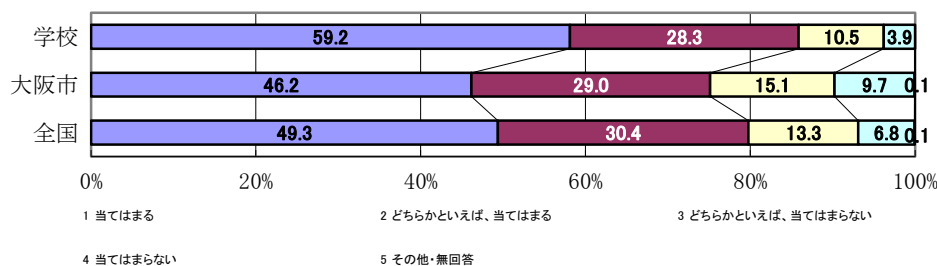
53

算数の勉強は好きですか



61

理科の勉強は好きですか



# 学校質問紙より

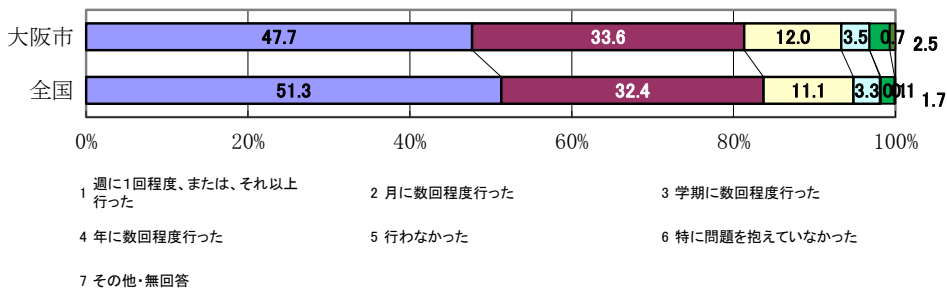
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

質問番号  
質問事項

13

前年度に、教員が学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決に当たることを行いましたか

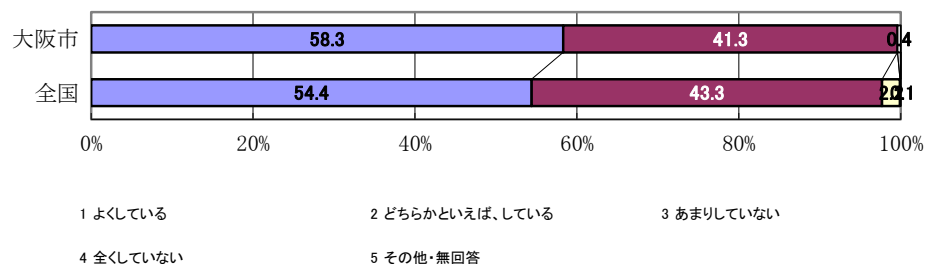
学校 「週に1回程度、または、それ以上行った」を選択



19

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか

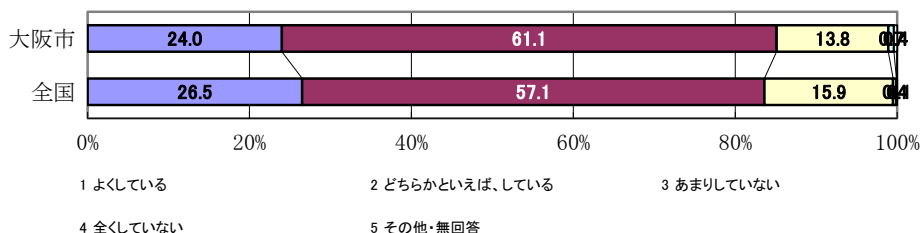
学校 「よくしている」を選択



20

児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っていますか

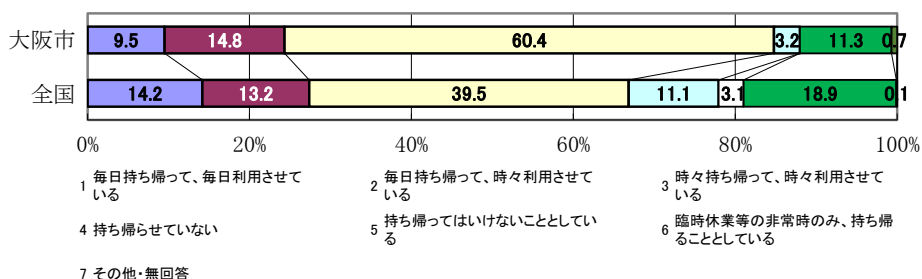
学校 「どちらかといえば、している」を選択



66

児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか

学校 「時々持ち帰って、時々利用させている」を選択



74

保護者や地域の人が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営等の活動に参加していますか

学校 「よく参加している」を選択

